

予告

石に刻む展 — その記録とまじわる思い —

会期 3月23日(土)ー5月26日(日)

会期中の休館日 3月25日、4月1日、8日、15日、22日、30日、5月7日、13日、20日

会場 企画展示室

観覧無料



長い歴史の中で「石に彫りあらわすこと」は、人々が古来から続けてきた記録の方法の一つ。身の周りにはたくさんの石造物がのこり、そこには、その名称をはじめ、人々の名前や建てられた経緯、年代などあらゆる事柄が刻まれています。

この展覧会では、美濃加茂市を中心に、土地改良碑や顕彰碑、戦争記念碑、石仏や道標などさまざまな石に刻まれたものたちを取り上げます。その文字やかたちをひも解くなかで、記録された地域の信仰、事件や出来事、当時の社会情勢を明らかにし、そこに込められた人々の思いの交わりを浮き彫りにしたいと思います。

今もなお、各地で造立され続けている石造物たち。景色に溶け込みながら、静かに立ち続ける石たちに耳を傾け、身近に息づく歴史に目を向けることで、石に刻む、という人の営みについて、改めて考える機会になれば幸いです。

会期中には地域の記念碑をめぐる探訪ツアーや拓本講座など、さまざまな関連イベントを予定しています。ぜひご来館下さい。

～現在、みのかも文化の森では、市内の石造物について調査中です～

みなさんのまわりにも石造物はありませんか？身近にたたずむ石造物は、地域の歴史や人々の姿を表す大切な文化財の一つです。土地改良碑や顕彰碑、戦争記念碑、石仏や道標をはじめとした「石に刻まれたもの」に関する以下のようなご情報があれば、ぜひ文化の森までお寄せください。

身近にある石造物の
所在についての情報

その石造物が建てられた年代、
またその経緯について
(その後、場所の移転などがされた
場合は、その年代や移動の経緯)

その石造物に関わる
資料についての情報
(建てられた時の文書や古い
写真、除幕式の資料など)

※ご家庭の敷地にある個人的な碑でもかまいません。

担当：学芸学習係 岩屋まで
TEL：0574-28-1110

みのかも文化の森の門松

門松とは松で作った正月飾りで、古くは正月に迎える歳神の依り代だったと考えられています。現代では、竹に松や梅を添えた華やかなものがよく見られますが、使われる材料や立てる場所は地域や時代によって様々です。

民俗学者・佐野一彦の『伊深日記』から、昭和20年代に美濃加茂市の伊深・三和地区で飾られていた門松の様子を知ることができます。それによると、山で採ってきた松の枝に赤い実をつけたフクラド(ソヨゴ)の枝と松の枝を縄で括り付け、紙垂を飾って門松を立てました。現代と比べるとたいへん簡素な作りであったことがわかります。地域によってウラジロという植物を添えることもあれば、松だけのものもありました。また、門松を立てない地域もあったようです。

文化の森の生活体験館(まゆの家)では1月7日まで、こうした簡素な門松を再現し展示しています。お立ち寄りの際はぜひご覧いただき、かつての暮らしに思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



再現した門松



2024年1月5日発行

Bunkanomori Special exhibition !

現代美術レジデンスプログラム

瀬田 哲司展
メダルのはなしー銀の植物と銀色の記憶ー

●会 期 2024. 1/13(土) - 2/25(日)

会期中の休館日 1月15日、22日、29日、2月5日、13日、19日

●会 場 企画展示室・美術工芸展示室

観覧無料

「芸術と自然」を主題にした現代美術展。国際的なメダルアーティストとして活躍する瀬田哲司(1960年ー)を紹介します。作家は1989年の美濃加茂彫刻シンポジウムに参加して《ウは宇宙船のウ》を前平公園に設置し、現在美濃加茂市美術展の審査員も務めるなど、当市にゆかりの深い作家です。彫刻をはじめ絵画や写真など多様な表現を展開してきましたが、近年は植物を金属に置き換えメダルにする作品を制作しています。メダルには植物の学名や年月日などが刻印され、作家がその時その地で植物を採集した記録にもなります。

本展で作家は、ミュージアムを囲む森の植物を使った新作を含む約100点のメダルを展覧します。90年代に制作した植物の写真シリーズ、制作の原点となった80年代の小彫刻も展示します。

輝きを放つ銀の質感と複雑な構造は、神秘的な宇宙空間を想起させます。多数のメダルが並ぶ姿はまるで一つのコレクションのように、植物への慈しみを掻き立てます。様々な見方を許し、観る者の目を楽しませる瀬田哲司の世界をお楽しみ頂ければ幸いです。

企画協力：アートボランティア

助成：公益財団法人せきしん地域振興協力基金



美濃国刻印須恵器(西暦716~729年)尾崎遺跡(文化の森内)出土

Chamaecyparis obtusa
Minokamo city museum Walk in the forest
August 20 2023 2023年 Silver950

ウは宇宙船のウ 1989年

forum & event

●日時	●会場	●内容
関連企画展示 「ウは宇宙船のウ」アーカイブ展 + 铸造ワークショップ作品展	1月27日(土) ~2月18日(日) 9:00-17:00	展示ホール
アーティストトーク 「彫刻シンポジウムを振り返る」	1月27日(土) 13:30-15:00	集合場所 企画展示室
アーティストトーク 「メダルアートを語る」	2月3日(土) 13:30-15:00	研修室

■観覧料：無料
美濃加茂彫刻シンポジウムに1989年に参加し瀬田哲司が制作した「ウは宇宙船のウ」の制作の様子を振り返るアーカイブ展です。また、今年度行った铸造ワークショップで参加者が作ったブロンズメダルを展示します。

アーカイブ展を観覧の後、市内の前平公園(美濃加茂市前平町3-1)に移動して野外彫刻「ウは宇宙船のウ」を見学し、美濃加茂彫刻シンポジウム当時の様子を振り返ります。(前平公園への移動は各自でお願いいたします。)

■参加料：無料 ■定員：20名

要事前申し込み 12月12日(火)~1月14日(日) *応募者多数の場合は抽選

瀬田氏に、自身が活動を展開しているメダルアートの世界についてお話しいただきます。
■当日受付 ■参加料：無料 ■定員：40名



minokamo_bunkanomori_official

展覧会情報のほか、風景・アート・収蔵資料など、みのかも文化の森の魅力を発信していきます。

Webでも楽しもう!文化の森

【ふらりと展示室】

美濃加茂市民ミュージアムにある常設展示室をWEB上で見られます。気軽に「ふらり」と立ち寄って、気の向くままにページを開いてみてください。そして、何かここで感じたことがあれば、それを確かめにこの展示室や現地を訪れてみてはいかがでしょうか...



文化の森HP <http://www.forest.minokamo.gifu.jp/>
→ふらりと展示室

【美濃加茂事典】

美濃加茂地域を中心とすることがらを事典形式で解説。

文化の森HP
<http://www.forest.minokamo.gifu.jp/>
→データベース→美濃加茂事典



■ご利用のご案内

開館時間 9:00~17:00

(ただし、施設の貸出し利用は8:30~22:00まで)

休 館 日 月曜日

(ただし、祝日の場合は開館し、直後の平日休館)

年末年始

【1・2・3月の休館日】

12月29日~1月3日、9日、15日、22日、29日

2月5日、13日、19日、26日

3月4日、11日、18日、25日

■交通

●鉄 道

JR名古屋駅から美濃太田駅まで

東海道本線・高山本線経由、

特急「ひだ」で約40分

美濃太田駅北口から徒歩約17分

●自動車

東海環状自動車道美濃加茂ICから約5分

●あい愛バス

JR美濃太田駅北口より乗車、「文化の森」下車

(乗車時間約10分)

※時刻表など詳しくは、あい愛バスのホーム

ページをご覧ください。

<https://aiiai-bus.com/>

行き	文化の森着	文化の森発	美濃太田駅北口着
美濃太田駅北口発	9:08	9:18	9:59
	10:48	10:58	11:39
	13:33	13:43	14:24
	15:15	15:25	16:06
			16:17

運賃 / 一般 100円 中学生以下無料

みのかも文化の森

美濃加茂市民ミュージアム
MINOKAMO CITY MUSEUM<http://www.forest.minokamo.gifu.jp/>

〒505-0004

岐阜県美濃加茂市

蜂屋町上峰屋3299-1

TEL : 0574-28-1110

FAX : 0574-28-1104

イベント

minokamo city museum



●日時	●名称	●内容	●会場	●参加料	●定員
～ 3/24(日)	ていねいな暮らしと道具展 害虫とうまく付き合う暮らし	かつての暮らしの中で使われてきた害虫に関する道具を中心に、昔の暮らしとその移り変わりを紹介します。	民具展示館	無料	—
1/20(土) 14:00-15:00	第 235 回 森の朗読会	市民による朗読です。 作品：「噂好きの猫」 群 ようこ / 作 「うずまき猫の行方」 群 ようこ / 作 「どんぐりと山猫」 宮澤賢治 / 作	緑のホール	無料	106 名
2/17(土) 14:00-15:00	第 236 回 森の朗読会	市民による朗読です。 作品：「背中を押すひと」 高田 郁 / 作	緑のホール	無料	106 名
3/16(土) 14:00-15:00	第 237 回 森の朗読会	市民による朗読です。 作品：「きのこ会議」 夢野久作 / 作 「林檎の花咲くころ」 石坂洋次郎 / 作	緑のホール	無料	106 名

四季を食べる講座



●日時	●名称	●内容	●申し込み方法	●会場	●参加料	●定員
1/20 (土) 10:30-13:30	手作りみそ	一度味わったら、絶対作りたくなる手作りみそ。 持ち物：エプロン、三角巾	要 事前申し込み 【12/9(土)～12/23 (土)】	生活体験館 (まゆの家) (受付も)	500円	15名
2/8 (木) 10:30-13:30	漬物と大根餅	大根と白菜の漬け方を学んで、ついでに大根餅も食べてしまおう。 持ち物：エプロン、三角巾	要 事前申し込み 【1/4 (木)～1/18 (木)】		500円	15名
3/7 (木) 10:30-13:30	囲炉裏を囲んで	カマドでご飯を炊き、囲炉裏で汁を温めて... そんな時代があったよね。 持ち物：エプロン、三角巾	要 事前申し込み 【2/8 (木)～2/22 (木)】		500円	15名

アートな 1 日講座



●日時	●名称	●内容	●申し込み方法	●会場	●参加料	●定員
2/4(日) ①13:00～14:30 ②15:00～16:30	陶芸で作る食器	手びねりの技法またはろくろで器をつくります。出来上がった作品は、後日お渡しします。(送付は有料) 持ち物：エプロン、タオル	要 事前申し込み 【1/4 (木)～1/16 (火)】 申込の際は希望時間をご記入下さい。	陶芸室	1,000円	各回 8 名

ていねいな暮らし講座



●日時	●名称	●内容	●申し込み方法	●会場	●参加料	●定員
3/14(木) 9:30-12:00	春を染める	春の草木で絹布を染めます。 持ち物：エプロン、ビニール袋、ゴム手袋、ぞうきん	要 事前申し込み 【1/25(木)～2/8 (木)】	生活体験館 (まゆの家)	1,500円	12 名

まゆの家

門松立て

～ 1 / 7 (日)

かつてこのあたりでみられた、簡素な門松を立てます。

年中行事

自由観覧

ひなかざり

2 / 3 (土) ～ 3 / 31 (日)

ひな人形、武者人形、動物など、土びなを飾ります。



ひなかざり

みのかも文化の森が『食文化ミュージアム』に認定されました

令和 5 年 3 月 3 日、みのかも文化の森は『食文化ミュージアム』に認定されました。文化庁では、食文化への学びや体験の提供に取り組む博物館、施設等を令和 3 年度から募集しており、当館の『美濃加茂伝承料理の会』の活動が食文化を継承する優れた活動であるとして認定にいたりました。

また、文化庁では、地域で世代を超えて受け継がれてきた食文化を、100 年続く食文化「100 年フード」と名付けています。この「100 年フード」に『美濃加茂伝承料理の会』が「四季を食べる講座」で取り上げた「大歳のごつつお」が認定され、今後は文化庁とともに継承していくことになります。



「美濃加茂伝承料理の会」の活動について

施設内に復元された養蚕農家で、伝承料理の講座を年 10 ～ 13 回程度、開催しております。朴葉を採集し朴葉餅、梅干し作り、栗を拾い栗おこわ、芋から作るこんにゃく、地元産大豆から作る豆腐やみそ等、その季節に昔から作られていた保存食や、農作業の節目の食事や祭、結婚式等のハレの日の行事食を伝承料理の会が講師となり、参加者が調理し、試食します。ご飯はクドで炊き、七輪で魚を焼き、すり鉢でゴマをする等、調理方法や道具も無理のない範囲で昔からある物、あった物を使用しています。会場となる昔の養蚕農家の和室の雰囲気や、クドで上がる薪の煙たさやご飯の香り等、料理動画では決して味わえない体験が講座の人気の理由となっています。料理のいわれや昔の行事や食に関わるエピソードなども、地元の高齢者等から聞き取り調査を行い資料にし、レシピと共に紹介します。



手描きのレシピ集販売中 /

地味だけど滋味深い「大歳のごつつお」

美濃加茂市では 12 月 31 日を“大歳（オオトシ）”と呼び、大晦日には“大歳のごつつお”（大歳のごちそう）が、必ず食卓にあがりました。大きな鍋に切った大根、ごぼう、にんじん、こんにゃく、里芋、を順に入れ、上に煮干しをのせ水を注ぎ煮ます。堅い野菜に火が通ったらしょうゆで味付けし、豆腐、油揚げ、糸昆布をのせ、弱火でじっくり煮ます。

昔は豆腐やこんにゃくも餅つきと同じように、近隣の親戚が集まって年末に作る手間のかかる食材でした。大晦日はこの煮物とお頭つきの魚としてメザシ（鰯の干したもの）がつき、「マメでクリクリ、カキトルように」（元気でよく働き、福や幸せをかき集められるように）と、炒った大豆、カチ栗、干し柿も食べました。山に囲まれたこの地方では、海の幸は定期的にやってくる行商人から買うのが普通だった時代があります。当時、メザシもたいそうなごちそうでした。

正月三が日の間、この煮物は何度も温め直されどんどん汁気が少なくなっていき、味が染みて美味しくなっていたそうです。

現代の華やかな年末年始の食卓に、一見地味な野菜の煮物が伝承し続けられているのは“ごつつお”が飽きの来ない滋味深い味わいだからでしょう。



第 17 回 博学連携フォーラム 開催しました！（2023 年 10 月 20 日）

今年度の博学連携フォーラムは、「ミュージアムで対話型の学習を目指して」をテーマに、午前中は下米田小 4 年生社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」の公開授業を、後半は愛媛県美術館学芸員の鈴木有紀氏をお招きし、「対話型鑑賞プログラムの楽しみ方（活用の仕方）をナビゲート！—どこから思う？からはじめよう—」のお話と質疑応答を行いました。

博物館では、間近で実物の資料を見て学びます。「どこから、そう思う？」は、「目の前にある資料のどの部分を見て、思ったのか」を尋ねる言葉です。この問いかけをしながら、子どもたち一人ひとりが、実物資料から何を感じたのか、どう考えたのかを引き出し、深い学びにつながるにはどうしたらよいのか、を参加者の皆さんと考えました。(MN)



絵図から学ぶ児童の様子



お話の様子

事前申し込みについて

電話、FAX による受付は行いません。右記のいずれかの方法でお申し込みください。

■文化の森ホームページ講座専用申込フォーム
こちらの QR コードからもお申し込みできます。→

■はがき（住所、氏名、電話番号、希望講座を記入）

■ご来館

※応募者多数の場合は抽選となります。抽選結果は郵送にてお知らせいたします。



講座にお申し込みいただいた個人情報、以下の項目のみに使用します。

1. お申し込みに関する問合せ
2. 講座開催に関する連絡
3. 抽選結果の通知

※イベントや講座について、今後の予定や定員が変更になる場合がありますので、文化の森ホームページでご確認いただくか、電話でお問合せください。